■奥平謙輔　　長州人ながら，戊辰戦争後，会津の人々のために尽力して慕われ，〝萩の乱〟首謀者として刑死した。
おくだいらけんすけ
天保改革始・1841＝　　萩城下で，長州藩士奥平清兵衛の第五子に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 4歳：

勇猛果敢・奔放不羈な性格で，

国定忠治磔・1850＝ 9歳：
長兄に子がなかったため，その跡を継ぎ，

ペリー来航・1853＝12歳：

藩校明倫館で学び詩賦に優れた。

安政の大獄・1859＝18歳：_萩を訪れた会津藩士秋月悌次郎の人格に触れ，詩文の才が開花し，人間的にも飛躍。
桜田門外変・1860＝19歳：

8月18日政変 1863＝22歳：下関戦争に先鋒隊士として参加。

薩長同盟・・1866＝25歳：_前原一誠が隊長つとめる干城隊に配属され，
書にも優れ，のち頼まれて揮毫したものも多い。
明治維新・・1868＝27歳：*戊辰戦争では，その参謀に抜擢されて転戦，会津近傍で，その落城と降伏式に臨んだのが秋月と知って手紙すると，秋月のみならず会津人の心を揺さぶる。府判事前原一誠のもと，越後府権判事となり，佐渡県知事井上馨が赴任せずに辞職してしまったため，新潟民政局総督の肩書で佐渡に派遣され，軍政を担い，
戊辰戦争終・1869＝28歳：*秋月から会津藩士の少年二人を書生として預かり，後に大成する道を開いた(山川健次郎は後に東京帝国大学総長，小川亮は近衛師団の工兵大隊長となる)。〝鬼参謀〟と畏れられ〝サンボウさん〟と親しまれるも，佐渡県が越後府に合併，判事に昇格したものの，信濃川分水計画に奔走した前原一誠が，それに反対する政府によって参議に祭り上げられた後を受けるかたちだったことや，軍政から文治に移行して行くことに耐えられず，別れも告げずに，帰郷。まもなく，山口に脱隊騒動が起き，
初の日刊新聞1870＝29歳：_木戸孝允の鎮圧命に従って出兵するも，反乱士族に同情して，引揚げてしまった後，前原が帰郷，
廃藩置県・・1871＝30歳：*おそらく木戸の陰謀で，広沢真臣が暗殺された日，前原宅も狙撃されたことで，木戸への憎悪が高まり，山口県権令中野梧一に不平士族鎮撫を要請された前原が士族を呼集するや千人を超え，{護国軍}として軍需品も支給されるのを見て，中立謳う前原を逆に反乱へと誘うが，
明治6年政変 1873＝32歳：
初の民間工場1875＝34歳：_前原が政府の〝君民共治〟に共鳴して，再上京すると，
三つの反乱・1876＝35歳：*前原を盟主に蹶起を決意，檄文を作り，熊本の神風連らとも連携，ついに〝萩の乱〟を起こし，前原が一度も戦線に立たないなか，最前線で戦い続けたが敗走し，前原とともに斬首となった。

松本健一「秋月悌次郎 老日本の面影」，